2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
環境生態系分野	分子予防環境医学特論Ⅱ	伊藤 達男

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2	選択	2	

目的

（1）環境保健を習得するため，環境による生体影響を理解する。
（2）環境からの細胞影響への関連を理解して，不明なところを実験的に解明できる能力を修得する。
（3）健康増進の意義を理解して，介入による生体影響を検討する能力を磨く。
（4）バイオインフォ技術を駆使して，大規模データの取り扱いに習熟する。

授業到達目標

（1）生態から取り出した情報を正しく評価，検討できる技術理論を習得する。
（2）環境因子の生体影響について国内外の最新情報を学習して理解し，研究に応用できる。
（3）分子生物学的，細胞培養学的手法を用いて，生物学的影響について解明できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	金	12:00-13:00	伊藤 達男 武井 直子	講義	[抄読会]	最新の英文文献を紹介し，討論する。 [場所:Web 講義]

評価方法

（1） 1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅲで紹介したものとは異なる論文 （症例）であること。
※２月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

討論会の現場で，先達である研究者から種々のコメントを届けることでフィードバックとして対応する。

教科書

ISBN-9784815701321, ゲノム 第 4 版: 生命情報システムとしての理解, T.A. ブラウン著、石川冬木 (翻訳)、中山潤一 (翻訳)，メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018

参考書

ISBN-9784766422511, バイオインフォマティクス入門，日本バイオインフォマティクス学会編，慶應義塾大学出版会, 2015

準備学習（予習・復習等）

（1）講義ごとに紹介する文献及び論文を，次回講義までに読んでおく。
（2）事前に教科書や参考書で約１時間程度，該当箇所を予習しておく。
（3）紹介された論文の要約を作成する。
（4）紹介された論文を読了するのに約１時間程度の復習を実施する。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。

注意事項・メッセージ

（1）論文の紹介は，誌名・巻（号）・頁・年・著者・題名・抄録・図表をスライドに纏めて Web 発表する。
（2）代表的な基礎的及び臨床的英文論文を読む習慣を身につけてください。